

技術検証報告書

2020年度新技術ワーキンググループ Dチーム



アジェンダ

2.2 検証の内容

2.2.1 検証①

2.2.2 検証②

2.2.3 検証③



1. FIDOについて	3. 結果と考察	
1.1 FIDOとは	3.1 検証結果報告	
1.2 FIDO利用の流れ	3.1.1 検証①	
1.3 FIDOの仕様	3.1.2 検証②	
1.4 FIDOの登録・認証フロー	3.1.3 検証③	
2. 検証について	3.2 所感・まとめ	
2.1 検証の目的と概要		



1.1 FIDOとは

 Fast IDentity Onlineの略称
 FIDOアライアンスが推進している パスワードレス認証を実現するための仕組み
 認証情報がネットワーク上に流れない為、 情報が漏洩するリスクがほとんどない



※FIDOアライアンスとは パスワードレス認証を用いた認証技術 (FIDO)の標準化を目的として 2012年に米国で発足した団体。

→現在普及しているパスワード認証に代わる次世代の認証技術





1.2 FIDO利用の流れ



利用者は端末と認証器を用意

FIDO認証の利用を開始





1.3 FIDOの仕様①

1. FIDOについて





パスワードレスでWebブラウザ上の認証が可能



1.4 FIDO2仕組み-登録フロー-





1.4 FIDO2仕組み-登録フロー-





1.4 FIDO2仕組み-登録フロー-





1.4 FIDO2仕組み-認証フロー-





1.4 FIDO2仕組み-認証フロー-



検証について

TE.

2.1 検証の目的と概要



- 検証目的

- FIDO2の動作に対する知見の獲得
- FIDO2を利用した認証システムの構築に対する知見の獲得

検証概要

検証①: FIDOサーバと認証するアプリを構築し、端末とサーバ間の通信を確認

検証②: オンプレにてFIDO2に対応したSSO用認証サーバを構築し、SSOを実装

検証③: FIDO2に対応したSSOのクラウドサービスでSSOを実装

検証期間

2020年10月7日 - 2021年3月中旬



2.2.1 検証①

検証内容:

2. 検証内容

FIDOサーバとFIDO2に対応したアプリケーションを構築し、認証を実施

検証目標:

- ・ FIDOサーバとアプリケーションを構築すること
- ・ FIDO2における認証フローを確認すること



2.2 検証内容



2.2.2 検証②

検証内容:

FIDO2に対応したオンプレミス型のSSOサービスを構築し、VPN装置にSSOでログイン

検証目標:

- ・ SSOサービスにFIDO2でログイン可能であること
- ・ SSOを利用してVPN接続が可能であること



2.2 検証内容



2.2.3 検証③

検証内容:

FIDO2に対応したクラウド型SSOサービスを利用し、VPN装置にSSOでログイン

検証目標:

- ・ SSOサービスにFIDO2でログイン可能であること
- ・ SSOを利用してVPN接続が可能であること





10.

3. 結果と考察



3.1.1 検証結果報告①

検証目標①: FIDO2サーバとサンプルアプリケーションを構築すること →OK 検証目標②: FIDO2における登録/認証フローを確認すること →OK



検証作業

- ・Linuxマシン上にFIDO2サーバを構築する
- ・Linuxマシン上にサンプルアプリケーションをインストールする
- ・クライアント端末と認証器を使用してユーザを登録する
- ・登録したユーザアカウントを使ってログインする



3.1.1 検証結果報告①

●FIDO2サーバ・サンプルアプリケーションのインストールソース

GitHubにてStrongkeyが公開しているFIDO2サーバ・サンプルアプリケーションのサンプルコード及びインストール手順

https://github.com/StrongKey/fido2

●検証環境(FIDO2+アプリサーバ)の条件

・サポートOS

RedHat 7, CentOS 7, Oracle 7, Ubuntu 18.04, Debian 9, Amazon Linux 2

・メモリ4GB以上、ディスク空き容量10GB以上のVM

・完全修飾ドメイン名(FQDN)を持ち、名前解決できる状態



3.1.1 検証結果報告①

3. 結果と考察

本検証の検証環境

●FIDO2+アプリサーバ

•Linux RedHat 7

・メモリ32GB、ディスク容量100GB

•FQDN:fidoap.kensho1.local

●DNSサーバ(FIDO2+APサーバの名前解決用)

•Windows Server 2016

●クライアント端末

•Windows 10

・サンプルアプリ利用ブラウザ: Google Chrome

●認証器

•BioPassFIDO2 K27(Feitian Technologies社)





3.1.1 検証結果報告①

3. 結果と考察

FIDO2サーバ構築手順

① FIDO2サーバのFQDN名を設定

\$ sudo hostnamectl set-hostname fidoap.kensho1.local

② rootユーザでwgetをインストール

\$ sudo yum install wget

③ バイナリ配布ファイルをダウンロード

\$ wget https://github.com/StrongKey/fido2/raw/master/fido2server-v4.3.0-dist.tgz

④ スクリプトを実行し、FIDO2サーバとアプリサーバPayaraをインストール、StrongKeyユーザアカウントを自動作成

\$ sudo ./install-skfs.sh



3.1.1 検証結果報告①

FIDO2サーバ構築手順

⑤ FIDO2サーバの動作確認。以下のようにWADLファイルが表示されれば動作に問題なし。

\$ curl -k https://localhost:8181/skfs/rest/application.wadl

```
[fidoadmin@localhost ~]$ curl -k https://localhost:8181/skfs/rest/application.wadl
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<application xmlns="http://wadl.dev.java.net/2009/02">
    <doc xmlns:jersey="http://jersey.java.net/" jersey:generatedBy="Jersey: 2.25.1 2017-01-19 16:23:50"/>
    <doc xmlns:jersey="http://jersey.java.net/" jersey:hint="This is simplified WADL with user and core resources only</pre>
. To get full WADL with extended resources use the query parameter detail. Link: https://localhost:8181/skfs/rest/appl
ication.wadl?detail=true"/>
    <grammars/>
    <resources base="https://localhost:8181/skfs/rest/">
        <resource path="">
            <resource path="/ping">
                <method id="ping" name="POST">
                    <request>
                        <representation mediaType="application/json"/>
                    </request>
                    <response>
                        <representation mediaType="*/*"/>
                    </response>
                </method>
            </resource>
            <resource path="/preregister">
                <method id="preregister" name="POST">
                    <request>
                        <representation mediaType="application/json"/>
                    </request>
                    <response>
                        <representation mediaType="application/json"/>
                    </response>
                </method>
            </resource>
            <resource path="/preauthenticate">
                <method id="preauthenticate" name="POST">
                    <request>
                        <representation mediaType="application/json"/>
```





3.1.1 検証結果報告①

サンプルアプリケーション(Java)構築手順

① StrongKeyユーザでログイン後、アプリケーションの構成ファイルを作成し、FIDO2サーバの場所を記載

② Webアプリケーションファイル「basicserver.war」をダウンロード

\$ wget https://github.com/StrongKey/fido2/raw/master/sampleapps/java/basic/basicserver.war

③ ②をpayaraに追加

\$ payara41 / glassfish / bin / asadmin deploy basicserver.war



3.1.1 検証結果報告①



https://fidoap.kensho1.local:8181/basicserver/





3.1.1 検証結果報告①





3.1.1 検証結果報告①





3.1.1 検証結果報告①

3. 結果と考察



https://fidoap.kensho1.local:8181/basicserver/





3.1.1 検証結果報告①





3.1.1 検証結果報告①



3. 結果と考察



3.1.1 検証結果報告①

FIDO2サーバでの登録ログ

[2021-03-10T10:10:22.072+0900] [Payara 4.1] [INF0] [] [] [tid: _ThreadID=29 _ThreadName=http-thread-pool::http-listener-2(6)] [timeMillis: 1615338622072] [levelValue: 800] [[POST https://fidoap.kenshol.local:8181/skfs/rest/preregister HTTP/1.1]]

[2021-03-10T10:10:22.126+0900] [Payara 4.1] [INF0] [] [] [tid: _ThreadID=33 _ThreadName=http-thread-pool::http-listener-2(10)] [timeMillis: 1615338622126] [levelValue: 800] [[json = {"username":"testuser","displayname":"testuser","options":"{\"attestation\":\"direct\"}","extensions":"{}"]]

did=1		
protocol=FIDU2_0		
username=testuser		発得ナカセン明律(チェレンジ)の桂起
displayname=testuser	ユーリー月牧	豆邨C1に公用姓(ナヤレノン)の旧牧
options={"attestation":"direct"}		
extensions={}]]		
	*	
		There die 22. Three dieses have the seal of a listen and 2(10)] [tim

[2021-03-10T10·10·22_253+09001 [Payara 4 1] [INF0] [FID0-MSG-00021 [SKFS] [tid-_ThreadID=33_ThreadName=b#fo-thread-pool::http-listener-2(10)] [timeMillis: 1615338622253] [levelValue: 800] [[

FID0-MSG-0002: Done with preregister request; Output: [TXID=33-1615338622141, START=1615338622141, FINISH=1615338622253, TTC=112] FID02Registration Challenge parameters = {"Response":{"rp":{"name":"demo.strongauth.com:8181"},"user":

{"name":"testuser","id":"mst_2Lcq641B99cPMGKv4AX0bJ7uBH_Cqy8NWE4eIbY","displayName":"testuser"},"challenge":"tsLD0tBn9d4Zvwrbl2mGfg","pubKeyCredParams":[{"type":"public-key","alg":-7},{"type":"publickey","alg":-35},{"type":"public-key","alg":-36},{"type":"public-key","alg":-8},{"type":"public-key","alg":-43},{"type":"public-key","alg":-65535},{"type":"public-key","alg":-257},{"type":"public-key","alg":-257},{"type":"public-key","alg":-257},{"type":"public-key","alg":-258}, {"type":"public-key","alg":-259},{"type":"public-key","alg":-37},{"type":"public-key","alg":-38},{"type":"public-key","alg":-39}],"excludeCredentials":[{"type":"public-key","id":"VUL0siUCvGCaar20Hmm6_KLGeTdqg3yPm9J5g2ppnIwQoXWXlwE1t2rHhf-oifWwN9DrXw5LjodnSdN8JXhxg","alg":-7}],"attestation":"direct"}]]

{"name":"testuser","id":"mst_2Lcq641B99cRMGKv4aX0bJ7uBH_Cqy8NWE4eIbY","displayName":"testuser"},"challenge":"tsLD0tBn9d4Zvwrbl2mGfg","pubKeyCredParams":[{"type":"public-key","alg":-7},{"type":"public-key","alg":-3},{"type":"public-key","alg":-4},{"type":"public-key","alg":-

ユーザのパスワードや生体情報はFIDO2サーバに存在しない



3.1.1 検証結果報告①

3. 結果と考察

躓きポイント・注意事項

■ 秘密鍵と公開鍵の再生成

keymanagerのjarファイルにバグがあり新しいユーザーの登録が正しく 行えなかったため、鍵を再生成した。

■ 地域の変更

Webアプリケーションとサーバー間で通信リクエストの構成が異なっており、 新しいユーザーの登録が正しく行えなかった。構成を揃えるため、地域設定を 日本から米国に変更した。

■ FQDNの設定

ドメインの名前解決ができずWebアプリケーションにアクセスできなかったため、 DNSサーバを追加で構築し名前解決を実現した。

3. 結果と考察



検証目標①:SSOサービスにFIDO2でログイン可能であること →OK



検証作業

・FIDO2に対応したオンプレミス型SSOサービスである Open AMを構築する

検証完了条件

・認証器を利用してOpen AMにログインができること



3.1.2 検証結果報告②

- OpenAMインストール手順:
- ① 必要ファイルをインストールする

(JDK8以降、tomcat7以降、SSL証明書とApache-HTTP)

- \$ yum -y install tomcat mod_ssl
- ② Open AMコンソーシアムのgithubに公開されてる、OpenAM14のwarファイルをダウンロードする
 ※FIDO2はOpen AM 14.0.0以上のバージョンにしか対応していないので注意する
- ③ FQDN、ホスト名を登録する (fidotest.kensho4.local に設定)
- \$ vi /etc/hosts
- \$ vi /etc/hostname



3.1.2 検証結果報告②

WebAuthn認証設定方法:

① Open AMの管理ページに「amadmin」でログインする。(<u>http://fidotest.kensho4.local:8080/openam/</u>)

② WebAuthn AuthenticatorサービスをOpen AMに追加する。

1	ーピスタイプを選択	
ſ	サービスタイプ	
1	Session Property Whitelist Service	Ĩ
	Social Authentication Implementations	
	UMA Provider	
-	User Self Service	
	Validation Service	I
ſ	WebAuthn Authenticator サービス	I
ľ	セッション	1
	ダッシュボード	

3. 結果と考察



パスワードレス認証連鎖の設定:

認証連鎖:認証モジュールを組み合わせて、それぞれの認証結果をもとに、次の認証モジュールの要不要を判定する機能
 ◆ 複数の認証モジュールを組み合わせることで、よりセキュアな認証を可能にする「多要素認証」機能を実装可能



3. 結果と考察



検証目標②: SSOを利用してVPN接続が可能であること ⇒NG



検証作業

・OpenAM側とVPN装置側でSSOの設定を行う

検証完了条件

・SSOを利用してVPN接続ができること



3. 結果と考察



3. 結果と考察







OpenAMにおけるログ

3. 結果と考察

<u>access.csv: すべてのアクセスに対して、誰が、いつ、何をしたのかを出力するファイル</u>





3. 結果と考察

エラー対処

i4) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/88.0.4324.150 Safari/537.36"" "シングルサインオンも連携も実行できません。 (The private key was null.)""}","

▶ 「秘密鍵がない」というエラーが発生しているため、証明書が原因であると推測

OpenAMの設定画面

https://114.156.12.23:443/SAML20/SP

証明書エイリアス

署名: 暗号化: キーサイズ: アルゴリズム: VPN装置(SP)の証明書エイリアスが 空白となっており何も登録されていない

3. 結果と考察



考えられる対策



OpenAMにVPN装置の

<u>証明書を登録</u>出来れば、解決する可能性がある

3. 結果と考察



3.1.3 検証結果報告③

検証目標: SSOを利用してVPN接続が可能であること →NG



検証作業

・クラウド型SSOサービスであるSoliton社OneGate側と VPN装置側でSSOの設定を行う

検証完了条件

・SSOを利用してVPN接続が利用可能であること





3.1.3 検証結果報告③

● SAML連携を利用したオンプレミスのサービスへのSSOは未対応 ※ロードマップとしては将来的に実装予定

→ VPN装置との連携は現時点では不可能

● OneGateにおけるSSO(SAML)対応サービス一覧

- •O365 •G Suite •box •cybouzu.com •Salesforce
- •AgileWorks •Akamai •ASANA •AWS •SAP •Slack
- •Cisco Webex •X-point etc.



3.2 所感・まとめ

3. 結果と考察

- アプリケーションやSSOサービスへのFIDO2導入が実現すれば、ユーザの利便性向上 とセキュリティ強化が同時に見込める
- FIDO2はセキュリティが厳重目つ認証が簡単であるが、最先端の技術であるため情報が少ない
 →今後も継続的な検証を行う価値あり
- エラーの未解決など検証に不十分な点があったため、引き続きFIDO2に関する調査・ 検証を行い、KELの事業領域拡大の一助となる可能性を模索する
- FIDO2に対応しているクラウド型SSOサービスにおいて、SSO連携が可能な サービスには制限があるため、選定には注意が必要である



ご清聴誠にありがとうございました